



戊戌 歲旦 五竹門 中傳

牡丹千春意 宿つて 卧陽庵 堯有

各詠

松の門や日もふあしと取正まぬ 紅二
みやふぬ水もたけし程今程の川 芳情
西月や抱ぬま宗子あそ人も 一茶

西比尾

前書略 紅二

蝶の朝や梅より先へ近き度 桃有
紙子たは返りてふ新 徐坊
室の津ら各うふ志意漆子て 芳情
さつこしく枕裏番のかり 一茶
おとこ恋も月子指かり 翠
おとこもあふた 十分の秋

雪好り梅の山里
かろけむのや
くも暖き梅の春意
のいとくねーて

予もりぬそーの仕廻や 外陽庵
雪子梅子

文通

こーと書け世法
あつぬもけ山里の
梅子春意

少作あり 春首
れも年もけり 徐坊
限り

京橋板

